

乳腺アポクリン癌、唾液腺導管癌ならびに前立腺癌に共通する脂質代謝異常に関する研究

1. 研究の対象

2012 年 1 月～2020 年 3 月に当院で唾液腺導管癌手術を受けられた方
2016 年 7 月～2020 年 3 月に当院で乳癌ならびに前立腺癌の手術を受けられた方
但し、乳癌については、研究責任者が行った先の研究(乳腺アポクリン癌における P504S (AMACR) 発現に関する研究)でもアポクリン癌を対象として、本研究の基盤となるデータを蓄積しているため、先の研究で研究対象となった方の一部を本研究対象とさせていただきます。

2. 研究目的・方法

目的 乳腺アポクリン癌と唾液腺導管癌は、いずれも性ホルモンのひとつであるアンドロゲンの受容体 (Androgen receptor; AR) タンパクを発現しています。また、脂質代謝における β 酸化関連酵素であるアルファメチルアシル CoA ラセマーゼ (Alpha-Methylacyl-CoA Racemase; AMACR, p504s) タンパクも発現しています。このように、タンパク発現は似ていますが、病態としての共通性は未解明です。ところで、 β 酸化はペルオキシソームとミトコンドリアでそれぞれ異なる目的で行われています。この研究では、 β 酸化経路に関連する様々な酵素タンパクの発現を免疫組織学的に調べます。また、癌細胞のアンドロゲン受容体と脂質代謝、特に β 酸化に関連する酵素タンパクをつくる遺伝子の関係を検索します。目的は、これらの癌腫における脂質代謝異常と、癌化や癌の発育への関連性を探ることです。また、これらの癌腫で特異的に過剰につくられる酵素が分かれば、その酵素を抑える薬が新たな治療薬になる可能性があります。

方法 **免疫染色**：脂質代謝に関連するタンパクの免疫染色を行います。
一部の乳癌検体では以下の各種遺伝子検索を行います。

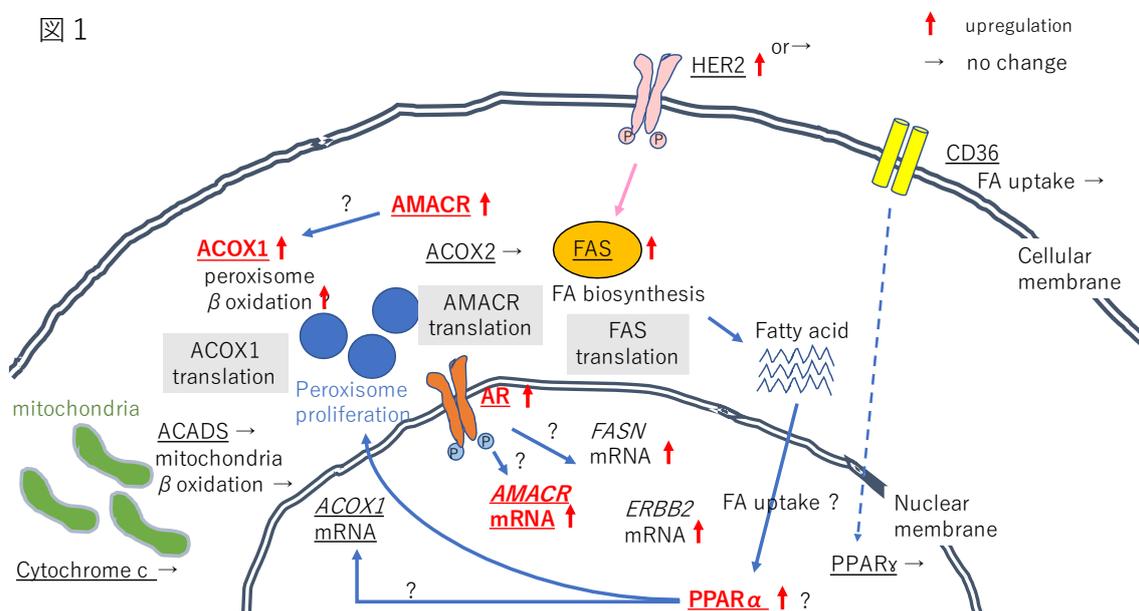
遺伝子パネル検査による変異解析：アポクリン癌 5 例を対象として TruSight Oncology 170 を用いて共通の変異や遺伝子増幅の有無を検討します。

ACOX1 遺伝子の遺伝子変異解析：上記のパネルには ACOX1 遺伝子が含まれていないため、サンガーシーケンス法という個別に遺伝子変異の有無を調べます。

マイクロアレイによる網羅的発現遺伝子のプロファイリング：研究予算により可能であれば、アポクリン癌と非アポクリン癌の 4 群に分けて、がん関連遺伝子であるアンドロゲン受容体に応答して発現する遺伝子をマイクロアレイによって網羅的に解析します。図 1 に示すようにアンドロゲン受容体から AMACR、ACOX1 が連続性のある応答遺伝子であるかどうかを確認するとともに、これら以外に発現亢進がみられる遺伝子群や、認識されてい

ないがん遺伝子が含まれていないかを探索します。

図 1



3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、カルテ番号 等

試料：手術で摘出した組織で、病理診断に用いられた後の残検体(組織ブロックより組織切片を作製して用います)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

研究責任者：

大阪国際がんセンター 研究所 ゲノム病理ユニット 中村ハルミ

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上